

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 4年 11月 21日

公表:令和 4年 11月 23日

事業所名 こども発達支援きのね irooha

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			体を動かしてあそぶスペースと学習や座ってあそぶスペースを部屋で分けている	
	2	職員の配置数は適切である	6	1		定員に対し、4人の職員を配置している	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	3	1		今後必要に応じて対応していく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7			ほぼ毎日ミーティングを行って、目標と振り返りを話し合っている	非常勤職員もミーティングに参加できる機会を作っている
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	2		評価表集計後にミーティングを行い、業務改善に向け話し合っている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	2			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2	3	行政書字に毎月訪問してもらい、評価してもらっている	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			定期的な社内研修の他、外部の研修にも参加している	外部研修に参加しやすいよう、職場環境を整備している
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			契約時、モニタリング時にしっかり時間をかけてアセスメントを行っている	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1		外部で受けてもらった発達検査の結果を必ず確認し、共有するようにしている	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7			イベントは会議をして案を出し合っている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			子どもと相談しながら毎日の環境設定を工夫している	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7			休日はイベントを多く開催している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1		毎日の支援計画の中で個別活動と集団活動を組み合わせている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			毎日のミーティングで確認している	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	1	何か問題があればその日に解決し、翌日のミーティングで話し合いをしている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			一人ひとりの記録は必ずとるようにしている	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7				代表と管理者だけでなく、次期管理者候補も参加していくようにする
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7			送迎時に時間があれば情報共有し、その他必要がある時に電話で情報共有を行っている。また、必要があるれば担当者会議を開催している。	送迎時や連絡帳で不十分な場合は、電話やメールでもお伝えしていく
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	3	2	現在医療的ケアが必要な子どもは利用していない	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	3	1		今後、必要であれば保護者の同意を得た上で情報共有していく
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	4	2		今後、必要であれば保護者の同意を得た上で情報共有していく
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		1	研修や交流会に参加している	どの職員も参加しやすいよう職場環境を整備しながら積極的に参加していく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4	2		地域のイベントへの参加を検討していく。また、公園などへの外出時に地域の子どもと関わる場面も見られるので、今後もそういった機会を増やしていく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	6			今後地域の情報を積極的に集め、参加を検討していきたい
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			毎日の送迎時、または連絡帳などでその日の様子をお伝えしている	送迎時や連絡帳で不十分な場合は、電話やメールでお伝えしていく
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	1			保護者向けの発達勉強会を開催していく	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1		モニタリング時の面談以外にも必要に応じて面談を行っている、定期的に発達相談会を行っている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	1		2か月に1度、きのねカフェという保護者交流会を開催している	平日だけでなく、日曜日などにも開催し、保護者が参加しやすいよう工夫していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			すぐにミーティングで共有し、対応を考えるようにしている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			月に一度、保護者向けに通信を発行している。また、ホームページで活動の様子を発信している	
	35	個人情報に十分注意している	7				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7				まずは地域の方に協力してもらい、こちらからは訪問するなどして交流をしていく

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7			ファイルにまとめ、職員誰もが閲覧できるようになっている	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			外部講師を招いての研修も行っている	今後も定期的に委員会の開催、研修の機会を設けていく
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7				定期的に委員会を開催していく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			ダブルチェックを徹底している。保護者から対応方法をお伺いして対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7				